

水稻栽培支援情報

第3号

令和6年7月17日

作成
JA丹波ささやま

○水稻定点調査結果（7月16日調査）

調査地	移植日	草丈 (cm)	草丈 平年比	茎数 (本/株)	茎数 平年比	出穂 予測日
後川上	5/3	91.5	116.7%	26.4	108.8%	7/25
般若寺	5/4	89.8	108.8%	25.3	101.1%	7/26
本郷	5/8	81.2	102.8%	19.1	105.1%	7/28
真南条下	5/10	80.5	104.0%	15.0	64.8%	7/30
町之田	5/9	85.2	108.7%	17.6	87.3%	7/25
川原	5/15	87.1	113.9%	32.5	164.9%	7/30
上小野原	5/19	80.1	102.7%	21.3	96.7%	8/3
市内平均	5/10	85.1	108.2%	22.5	103.1%	7/28

※xarvioによる予測（7月17日現在）

1. 気象概要

7月1日～15日までの平均気温は、25.9℃（平年 24.5℃）と高温で推移しています。積算降水量は 137mm（平年 151mm）と平年よりやや少なく、積算日照時間は 52h（平年 46h）と平年より多く確保できました。

2. 生育状況

6月中旬以降、気温が平年より高く、草丈は平年以上（平年比 108%）で推移しています。茎数は 22.5 本/株（平年比 103%）と目標の茎数 20 本以上は確保できていますが、調査地でばらつきは見られます。営農支援アプリ xarvio による出穂予測日（出穂期：50%出穂）は市内平均 7/28 となり、昨年 7/31 と比較して3日早くなる見込みです。

3. 病害虫

目立った発生はありませんが、畦周辺ではカメムシ類が多く見られます。

○今後の対応（出穂期～）

①出穂後1週間は湛水管理、穂揃い期以降は飽水管理を実施！

7月下旬から出穂が始まります。開花期には多くの水が必要ですが、同時に収穫まで根の活力を維持する管理が必要です。そのため、下図を参考に穂揃い期以降は飽水状態（足形に水が溜まっている程度）を保ちましょう。



②肥料切れを防ぐ！

省力型施肥でも、昨年の夏期高温で肥料切れが見られた場合は、出穂期までに追肥を実施してください。
*JA 丹波ささやま栽培こよみを参照

③斑点カメムシ類対策を万全に！

斑点米被害粒が増えています。斑点米は出穂後2週間程度（乳熟期後半～糊熟期）に吸汁されたもので、吸汁程度のひどい場合は屑米に、吸汁程度の軽いものは斑点米になります。対策としては、出穂1週間後に薬剤防除をすることが効果的です。近年問題になっているイネカメムシについては、開花初期の籾を加害し、不稔を引き起こすため、対策としては出穂期の薬剤防除が効果的です。さらに斑点米被害も起こすことから 7/12 配信の JA 丹波ささやま LINE 情報を参考に対策をお願いします。



吸汁程度の軽いもの：斑点米



近年問題のイネカメムシ

問い合わせ先

JA丹波ささやま営農指導課 079-556-2355

監修：丹波農業改良普及センター

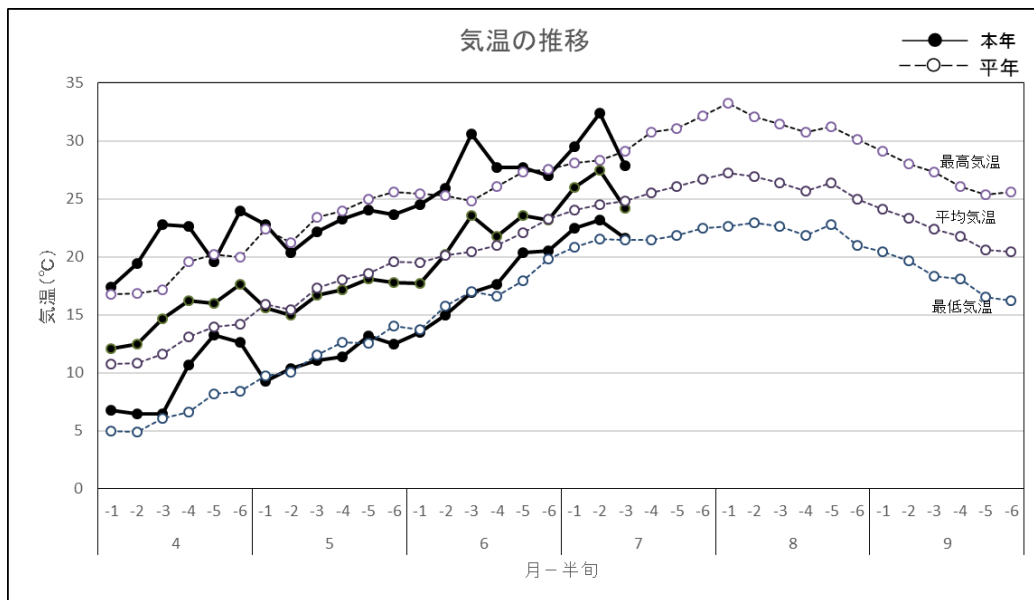


図1 気温の推移（最高・最低・平均気温）

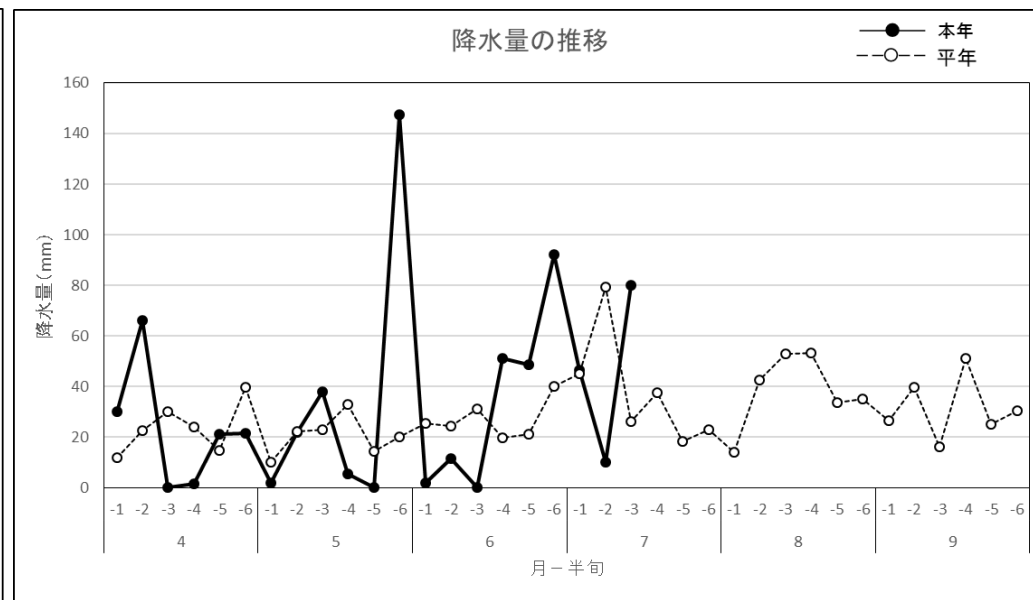


図3 降水量の推移

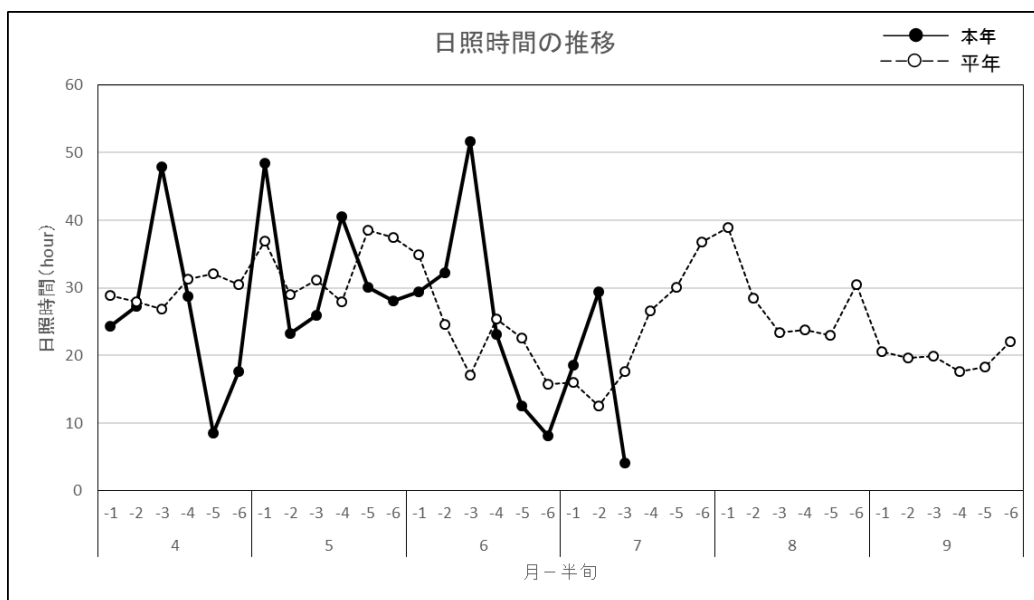


図2 日照時間の推移